

再び澤村胡夷作詞「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」について（六訂稿）

—日本統治下台湾警察史の一齣—

（令和 4（2022）年 7 月 26 日（火）現在）

（はじめに）

・本稿は、元は他用があつて昨平成 19（2007）年 10 月 31 日付けで作成したもの¹であるが、その後、本平成 20（2008）年初頭に一時期ネット上で「台湾警察歌」が聞けるようになったこと等があつたことから、二、三修正して、改めてここに収録した。なお、下記「（参考）本 HP 掲載「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」等関係諸稿」と重複するところあることをお断りしておく。

（平成 20 年 6 月 13 日改訂稿時記）

（改訂経緯）

- ・平成 19（2007）年 10 月 31 日（水）初稿作成
- ・（HP 初出）平成 20（2008）年 6 月 13 日（金）改訂稿作成
- ・平成 20（2008）年 6 月 17 日（火）再訂稿作成
- ・平成 20（2008）年 6 月 29 日（日）三訂稿作成
- ・平成 24（2012）年 10 月 1 日（月）四訂稿作成
- ・平成 26（2012）年 11 月 24 日（月）五訂稿作成（一部補正）
- ・令和 4（2022）年 7 月 26 日（火）六訂稿作成（レイアウト変更、一部補正、追加）

（参考）

本 HP 掲載「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」等関係諸稿

* 1 本稿関連で、全般的なものは、台湾の HP「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉参照。なお、同 HP 中「台湾の校歌其他」で「台湾警察歌」のメロディーが聴ける。（令和 4（2022）年 7 月 26 日現在では削除済）

* 2 本 HP 掲載の日本統治下台湾関係歌稿としては、下記の諸稿がある。

- ・「澤村胡夷と台湾警察歌—日本統治下台湾警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawamura001.pdf>〉
- ・「「台湾警察歌」の作曲者一條慎三郎氏の御業績を巡って— 一條元美氏の御長逝を悼みて—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichijo001.pdf>〉
- ・「『鷺巣敦哉著作集 補遺』（緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊）概要」（「台湾警察歌」関係あり。）
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu003.pdf>〉

¹ 「再び澤村胡夷作詞「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」について—日本統治下台湾警察史の一齣—」『法史学研究会会報』第 12 号（平成 20 年 3 月 25 日刊）96～100 頁（平成 26 年 11 月 24 日追加）

・「台湾総督府警察官及司獄官練習所歌覚書—「椰子の実みのる」及び「彩雲めぐる」をめぐって— 日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/reushushouta.pdf>〉

・「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sayun001.pdf>〉

・「「サヨンの鐘」関係文献抄—本 HP 別稿「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑— 参考資料—」(本稿)

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sayunbunken.pdf>〉

・「再び澤村胡夷作詞「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」について—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/futatabi.pdf>〉

・「佐塚佐和子歌「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」覚書」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/satsuka.pdf>〉

・「「台湾軍の歌」覚書—日本統治下台湾諸歌の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/taiwangunka.pdf>〉

・「ネット等に聴く戦前期の台湾歌謡曲—「雨夜花」と「サヨンの鐘」を中心に— 日本統治下台湾諸歌の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/netkayo.pdf>〉

・台北帝国大学予科「逍遙歌 高砂周遊の歌」関係資料一斑

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shoyoka001.pdf>〉

〔目 次〕

1 はしがき	2
2 澤村胡夷「台湾警察歌」その後	3
3 「サヨンの鐘」その後	5

1 はしがき

ある地域の歴史を検討するに際して、それと関連する歌を探ることは、もとより興味深いことである。日本統治期台湾関連の記念歌、社歌、校歌、寮歌、軍歌及び歌謡曲等については、かつてその一部が『台湾協会報』に連載され²、現在では、台湾の「まろやか翁(りょうらいふく氏、1922～[?])」が管理、運営し、同地の「ヤベ氏(葉雪淳氏、1930～[2011?])」及び我が台湾諸学研究者三田裕次氏[?～2014、65歳]のお二方が協力されているHPサイト「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉が、そのほとんどを登載して、大きな反響を呼んでいる。

このうち当該時期警察史において特に重要なものは、今更いうまでもないが、記念歌、社歌の類では澤村胡夷(1884～1930)作詞、一條慎三郎(1870～1945)作曲「台湾警察

² 校歌については、夙に武田實『台湾校歌集—われらが心の母校の記念として—』(自己出版、昭和62年1月刊)が刊行されていた。

同第 139 号（昭和 4 年 1 月刊）の関係記事（上記図参照）の写しを頂戴できて、漸く判明した次第である⁶。早速、その一端を『台湾協会報』で紹介し⁷、更に、作曲者一條愼三郎に関しても、同紙で言及した⁸。

その後、時は移り、平成 18（2006）年 11 月（同月 18～25 日掲載）に、「Yahoo! オークション」で「台湾警察歌」のレコードが出品されたのを知って、再度驚いた⁹。

次いで、平成 19（2007）年秋頃、HP「音顧指針 蓄音機 SPレコード 骨董 辺境の旅」〈<http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/10230679.html>〉（開設日：2007/3/2（金））に、「8. パーロホン NO.E1939 1932 年 11 月発売 A 面「台湾警察歌」澤村専太郎詞 一條愼三郎曲 田村猛雄 B 面「蕃界警備壮夫の歌」本間善庫詞 一條愼三郎曲 山田道雄・東京セレネーダス合唱団」の記載があることを見つけたが、当時画像は見る事ができないようであった（平成 19 年 10 月 31 日閲覧時点）。しかるに、その後、平成 20（2008）年 1 月 2 日午後 7 時 24 分には、上記「台湾警察歌」の画像が掲載された〈<http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/29542875.html>〉。続けて、同日午後 7 時 31 分には、歌そのものも聴けるようになった（平成 20 年 6 月 29 日現在下記サイト閲覧可能〈<http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/29543224.html>〉。）。また、上記「蕃界警備壮夫の歌」も、平成 20 年 1 月 2 日午後 7 時 43 分に、画像とともに、曲そのものも聴くことができるようになった（平成 20 年 6 月 29 日現在下記サイト閲覧可能〈<http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/archive/2008/01/02>〉。）。

（この部分：再訂稿（平成 20 年 6 月 17 日）時点より一部修正）

更に、同じ平成 20（2008）年 1 月 2 日（水）午後 4 時 23 分、「MOVIE CASTER」（ムービーキャスター）に、上記「パーロホン 1932 年 11 月発売 A 面「台湾警察歌」澤村専太郎詞 一條愼三郎曲 田村猛雄・東京セレネーダス合唱団」が、「tony」氏によりネット公開された。寔に貴重なことである。ただ、ネット事情に疎くてよくわからないが、何故か時折閲覧できないことがある（平成 20 年 6 月 1 日には閲覧確認。同年 6 月 17 日現在で

⁶ 両誌は、一時期台湾で復刻されるといわれたが、最終的には、国立中央図書館台湾分館（現国立台湾図書館）所蔵本を基に、マイクロ資料『台湾警察協会雑誌』第 1 号～第 149 号（大正 6 年～昭和 4 年）、『台湾警察時報』第 1 号（通巻第 150 号）～第 335 号（昭和 5 年～昭和 18 年。昭和 5 年より『台湾警察時報』に改名。欠号、第 326～328 号）28 リール 16mm 国立中央図書館台湾分館員工消費合作社 2002（平成 14）年刊（日本代理店）雄松堂」として刊行されている。

⁷ 註 3 参照。更に補訂の上、拙編『鷺巣敦哉とその時代—日本統治下台湾警察史雑纂第四輯—』（平成 15 年 8 月 1 日刊）94 頁以下に収録した。

⁸ 拙稿「一條愼三郎について—日本統治下台湾音楽史の一齣—」『台湾協会報』第 586 号（平成 15 年 7 月 15 日刊）。これも、上記第四輯 97 頁以下に再録した。その後、旧台北第一師範学校同窓会報『芝山』第 15 号（平成 16 年 12 月 15 日刊）に、「一條愼三郎先生を偲ぶ」関係論稿 7 編が掲載され、また、岡部芳広（1963～）『植民地台湾における公学校唱歌教育』（明石書店、平成 19 年 2 月 28 日刊）166 頁以下にも、一條関係の記載がある。近年、日台両地で一條の再検討が始まっているようである。
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichijio001.pdf>〉

⁹ この「Yahoo! オークション」の記事は、その後既にネット上では検索できなくなっていたことから、台湾警察史検討上はもとより、今後の澤村胡夷研究のためにも、この事実を残しておきたく、拙編『鷺巣敦哉とその時代（第三続輯）—日本統治下台湾警察史雑纂第七輯—』（平成 19 年 3 月 31 日刊）掲載の「刊行の葉」に収録しておいた。

は閲覧不能。削除か。) 10。いずれにせよ、これで、多年いつかレコード自体を是非とも聞いてみたいと願っていた「台湾警察歌」を、初めてネットで聞くことが出来るようになった。また、同時に、同じ「tony」氏により、上記「パーロホン NO.E1939 1932 年 11 月発売 B 面「蕃界警備壯夫の歌」(本間善庫詞 一條慎三郎曲 山田道雄・東京セレネーダス合唱団)」も、「MOVIE CASTER」(ムービーキャスター)収録された。ただ、これも、上記「台湾警察歌」と同じ状況下にある(平成 20 年 6 月 1 日には閲覧確認。同年 6 月 17 日現在では閲覧不能。削除か。)。ネット検索上の問題点の一つである。

(http://www.moviecaster.net/movie_ranking3.php?id=11&s_id=91&rank=40&o=2)

また、作詞者澤村胡夷については、夙に大嶋知子氏(1944~)の古典的ともいえる御著作¹¹があるが、最近では、三高同窓会有志の諸氏が精力的に調査をされている。ここでは詳しくは述べないが、一、二新たな研究の動きもある¹²。

「台湾警察歌」は、澤村胡夷最後の詩作(同氏は昭和 5(1930)年 5 月 23 日逝去)ともいふべきものであり、その意味で、今後更に研究されてよいものと思われる¹³。

3 「サヨンの鐘」その後

他方、「サヨンの鐘」検討については、下村作次郎先生の詳細な御研究¹⁴が著名である

¹⁰ 「台湾警察歌」のネット上の詳細については、本 HP 掲載の別稿「澤村胡夷と台湾警察歌—日本統治下台湾警察史の一齣—」参照。<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawamura001.pdf>

¹¹ 大嶋知子『沢村胡夷全詩集』(中央公論事業出版、昭和 42 年 3 月 3 日刊)

¹² 例えば、HP「三高私説」<http://www2s.biglobe.ne.jp/~tbc00346/component/index.html>

(平成 19 年 10 月 31 日閲覧)中の諸稿参照。なお、同 HP 紹介の岩辻賢一郎氏(昭和 52 年京大医卒との由)のものをも参照。ちなみに、三高史については、従来、神陵史編集委員会『神陵史—第三高等学校八十年史—』(三高同窓会、昭和 55 年 3 月 31 日刊)があったが、先般、戦中・戦後関係について、上横手雅敬(1931~)原著『戦中・戦後三高小史』(神陵文庫別冊、三高記念室編集、三高自昭会、平成 20 年 1 月 25 日刊)が刊行された。

¹³ 「台湾警察歌」は、その後、大嶋知子(花輪知子)「『紅もゆる』の詩人沢村胡夷」(平成 14 年 9 月 18 日講演、『紅萌抄』別冊(平成 15 年 3 月刊(?))に収録。)16、17 頁、海堀昶(現三高同窓会常勤理事)「澤村胡夷作詞の歌 新発見 台湾警察歌」(三高同窓会『会報』第 97 号(平成 15 年 3 月 31 日刊))10、11 頁及び高島俊男『百年のことば お言葉ですが…⑧』(文藝春秋、平成 16 年 2 月 25 日刊)258 頁等で紹介されている。なお、曲自体は、上記台湾の HP「古い記憶のメロディ」<http://www.geocities.jp/abm168/>に収録されている。

(追記)本 HP 別稿「『鷺巣敦哉著作集 補遺』(緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊)概要」に下道郁子氏論稿等最近の「台湾警察歌」関係記載あり。(平成 26 年 11 月 24 日追加)

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu003.pdf>

¹⁴ 下村先生は、「サヨンの鐘」関係について、①「『サヨンの鐘』物語の生成と流布過程に関する実証的研究(1)」『天理台湾学報』第 10 号(平成 13 年 3 月 1 日刊)、②「日本から逆輸入された『サヨンの鐘』の物語—中央舞台の台湾上演と呉漫沙の『サヨンの鐘』藤井省三(1952~)・黄英哲(1956~)・垂水千穂(1957~)編『台湾の「大東亜戦争」』(東京大学出版会、平成 14 年 12 月 20 日刊。もともと上記「実証的研究」の(2)として構想されたものとの由。)、③「各種『サヨンの鐘』の検討—劇本・小説二冊・シナリオ・教科書—」『中国文化研究』第 19 号(『中文研究』改題、天理大学国際文化学部中国学科研究室、平成 15 年 3 月 15 日刊。②とともに上記「実証的研究」の(2)として構想されたものとの由。)等多くの論稿を公表されておられ、いずれ一本にまとめられる御予定と仄聞する。また、「サヨンの鐘」関係の当時貴重な著作を収録した下村作次郎編『「サヨンの鐘」関係資料集』(日本統治期台湾文学集成 28、緑蔭書房、平成 19 年 6 月 30 日刊)も出ている。下村先生の御著作については、下記参照。

が、これまでに殆ど検討され尽くされた感があった¹⁵。しかるに、平成 19 (2007) 年 6 月に、上記台湾の HP「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉上のゲストブック⑱、⑲ (平成 19 年 6 月 15 日～22 日、ヤベ氏 (葉雪淳氏)、KMT 氏及び山田三郎氏のやりとり) で、KMT 氏により当該歌についての重要な新たな知見が掲載された。

この中でとりわけ注目すべきは、西条八十作詞歌詞の原案のことである。これは、従来、当時(財)台湾放送協会にいた中山侑(すすむ、1906～1959)が作ったものとされていた¹⁶が、KMT 氏は、所謂「下書き原稿」は、台湾総督府から同協会を通じて「創作企画」の話が今も台湾・花蓮吉安(旧吉野村)で健在の今年(2007 年時点)95 歳になる葉梅松氏(当時宜蘭在住の由)に依頼され、同氏が作成したものであって、現在も葉氏の手元にその時期の一連の資料が残っていると記載されている。日本国内では直ちに検証できないことではあるが、事実とすれば、寔に貴重なことと思われる。詳しくは、上記ゲストブック参照。

このように、「サヨンの鐘」についても、まだまだ隠されたことも多いことと思われる

〈<http://www.tenri-u.ac.jp/teachers/dv457k0000001zvl.html>〉

¹⁵ その他一、二指摘しておく。

① 最近の台湾の「莎韻之鐘」関係の HP には、教えられることが多い。例えば、下記 HP その他に、貴重な記事が掲載されている。

・澤庵氏 HP「植民世代」中の「歌曲『莎韻之鐘』相關文獻的查證」

〈<http://tw.myblog.yahoo.com/jw!VC00iUmLHwKalCCy98M4/article?mid=104&prev=-1&next=97>〉

(平成 19 年 11 月 12 日掲載) (本 HP 平成 26 年 11 月 24 日現在では見ることができないのでは?)

・「陳凱劭的 BLOG 陳凱劭的文章、攝影、評論、活動記錄的部落格」中の「サヨンの鐘 (Sayon no kane) ,1943」〈<http://blog.kaishao.idv.tw/?p=1152>〉

〈<http://blog.kaishao.idv.tw/?p=1152#comment-10857>〉

② 初めて「サヨンの鐘」の物語を作品化(『国民演劇』第 1 巻第 10 号(昭和 16 年 12 月刊)49～66 頁、台湾総督府情報部推薦)した村上元三(1910～2006)の本作に関する戦後の回想として、村上『思い出の時代作家たち』(文藝春秋、平成 7 年 3 月 20 日刊)47～49 頁、182～185 頁がある。これは、その師たる長谷川伸(1884～1963)との関係によるものであるが、長谷川は、当時台湾総督府の招きで渡台し、浜田弥兵衛(映画『南方発展史 海の豪族』(日活、昭和 17 年 10 月))及び鄭成功(1624～1662、小説『国姓爺 芝虎の巻』(大道書房、昭和 18 年刊))関係を調査、執筆しており、村上はこれに随行したものである。長谷川、村上のこの時の台湾行の詳細が判明することが望まれる。なお、尾崎秀樹(1928～1999)『横浜の作家たち—その文学的風土』(有隣新書 21、有隣堂、昭和 55 年 12 月 10 日刊)109 頁参照。

③ 「サヨンの鐘」のモデルである田北正記氏(昭和 13 年時台北州下のリヨヘン駐在所勤務の警手、当時 26 歳、? ～1980、享年 68)の回想が『宮崎日日新聞』昭和 54 年 3 月 26 日第 14 面に掲載されていること、翌昭和 55 年 1 月 14 日に逝去されたことは周知のことであったが、その逝去記事が『宮崎日日新聞』昭和 55 年 1 月 16 日第 13 面に掲載されている。

¹⁶ 『台湾芸術』第 3 巻第 11 号(昭和 17 年 11 月刊)11 頁「今日の話」参照。これを初めて指摘したのは、下村作次郎前掲論文①167 頁である。なお、中山は、昭和 10 年代初めの一時期台湾警察協会に勤務して、『台湾警察時報』の編輯にも当たっており、『台湾総督府警察沿革誌』の編者である鷲巢敦哉(1896～1942)とも懇意であった。中山については、中島利郎『日本統治期台湾文学研究序説』(緑蔭書房、平成 16 年 9 月 10 日刊)31 頁以下参照。

ので、更なる探究が期待される。

ちなみに、「サヨンの鐘」については、平成 20 (2008) 年に入って、「You Tube」に、渡辺はま子及び胡美芳 (1926～ [2009]) のものが掲載された¹⁷。更に、同年 5 月 28 日には、台湾の方の掲載と思われるが、塩月桃甫 (1886～1954) ¹⁸の有名な油絵「サヨンの鐘」を表紙にした「莎韻之鐘「サヨンの鐘」」も、掲載された¹⁹。

なお、戦後の台湾では、「サヨンの鐘」のメロディを用いて、「月光小夜曲」なる歌が北京語で歌われている²⁰。

(平成 19 年 10 月 31 日稿、平成 20 年 6 月 13 日改訂、同年 6 月 17 日再訂、同年 6 月 29 日三訂、平成 24 年 10 月 1 日四訂、平成 26 年 11 月 24 日五訂、令和 4 (2022) 年 7 月 26 日六訂)

(了)

¹⁷ ・渡辺はま子のもの〈<http://jp.youtube.com/watch?v=G54YpWBhp3I>〉(当時のレコードのもの。平成 20 年 1 月 2 日掲載)

・胡美芳のもの〈<http://jp.youtube.com/watch?v=ZiWC7DW4HFU&feature=related>〉(平成 20 年 4 月 6 日掲載)

¹⁸ 塩月桃甫につき、例えば、下記参照。

〈<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/chiiki/seikatu/miyazaki101/hito/068/068.html>〉

¹⁹ 「莎韻之鐘「サヨンの鐘」」: 〈<http://jp.youtube.com/watch?v=w8ilpWgTYTk>〉

²⁰ 「月光小夜曲」は、「You Tube」、「YOUAKER (優美客)」にも、多数掲載されている。例えば、下記参照。〈<http://jp.youtube.com/watch?v=92n9AG0a1b8&feature=related>〉、

〈<http://www.youmaker.com/video/sv?id=fcf877ad5ae448c4855fd21bdc8887a2001>〉(蔡琴のもの)等。